

2022 年度大学院（全研究科）入学式・式辞

2022 年 4 月 2 日
早稲田大学総長・田中愛治

早稲田大学大学院へ入学される大学院生の皆さん、また、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。新大学院生の皆さんはもちろん、このたび入学される大学院生を育て、支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

今年、進学された院生の皆さんは、特別な思いを持っていることでしょう。この2年間、新型コロナ・ウイルス感染症の拡大というパンデミックに、日本中が、いや世界中が振り回されました。皆さんは大学院進学を目指しながらも、各大学のキャンパスに通うこともままならず、この2年間を不安の中、辛い思いで過ごされたことと思います。皆さんは、こうした厳しい環境の中で、不安と闘いながら、進学の準備をされてきました。皆さんが、逆境をはねのけ、本日の入学式を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。そして、敬意を表します。

私が早稲田大学の総長になって約3年半経ちますが、2年以上をコロナ対策に費やしました。しかし、私たちは決してこの経験をネガティブな記憶として残すだけではないと思います。コロナ・パンデミックの中で学んだことを未来に繋げていかなければなりません。

では、私たちは、このコロナ・パンデミックの中で何を学んで来たのでしょうか。日本に住んでいる私たちは、少なくとも二つのことを学んだと思います。一つは、日本社会は正解の定まっていない未知の問題を解くことが苦手な社会であるということです。コロナ・パンデミックは正解のない未知の問題の典型的なものでした。これに対する各国の対応が、日本より優れていたわけではありませんが、日本社会も混乱しましたし、現在もどのような方針をとるべきかは、専門家の間でも、政策を決定する人々の間でも定まっていません。

もう一つ、私たちが学んだことは、日本社会はデジタル化、いわゆるデジタル・トランスフォーメーションにおいて他のOECD諸国に大きく遅れをとっているということです。新型コロナ・ウイルスの感染が広がっていく中で、日本社会では情報がデジタル化されていなかったために、明らかに情報共有が遅れ、救急搬送の患者が入院できる病院が見つかるまでに、人と人の電話でのコミュニ

ケーションによる作業が延々と続けられ、救急車の中で患者が一つの病院から他の病院へと、たらい回しになるケースが多く発生しました。これは、日本の科学技術力の水準からいえば、避けられることでした。AI を利用するシステムが確立していれば、もっとスムーズに病院への手配が出来たはずですが。私たちは、何故そうなったのか原因を考えるべきでしょう。

では、皆さんはこれから早稲田大学の大学院で学問を本格的に学び始めるにあたって、どのような心構えで向かうべきなのでしょう。私は、2018年11月に総長に就任して以来、学生の皆さんに「たくましい知性」を鍛え、同時に「しなやかな感性」を涵養することを提唱してきました。今年は、それに加えて「ひびきあう理性」を磨いてもらいたい、という言葉贈ります。

既に早稲田で学んだことのある人は、ご存じとは思いますが、簡単に「たくましい知性」と「しなやかな感性」とは何かを述べておきましょう。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミック対策には、これが正解と証明されているものはありません。同様に、地球の温暖化による気候変動への対策も、地球上の至る所に存在する貧困と格差の解決法も、現在のロシア政府指導者によるウクライナへの侵略と人権侵害への打開策も、どれをとっても正解の定まっていない未知の問題です。それらの未知の問題の解決策を考え抜く知性を、「たくましい知性」と私は呼んでいます。

皆さんは、これから学問研究に従事するのですから、答えのない未知の問題に挑戦する「たくましい知性」をより一層鍛えていただきたいと思います。ただし、未知の問題の解決を考える際には、自分の頭で考えるだけでなく、学問を修めることが必要不可欠です。

学問とは、人類が文字を発明して以来約5千年の人類の経験のエッセンスを体系的にまとめたものです。したがって、人類が過去に経験していない問題の正解は、学問の中には記されていないかもしれません。しかし、過去に人類が直面した未知の問題に、どのように人々が挑戦し、解決してきたかは記されているはずです。つまり、答えのない未知の問題に、どう挑戦するのかという方法論が、学問には体系的に示されているのです。ですから、学問を修めることをおろそかにしては、「たくましい知性」を鍛えることはできません。

「しなやかな感性」とは、自分とは異なる国籍・民族・言語・宗教・文化・信

条を持つ人々、自分とは異なる性別や性的指向性をもつ人々の考え方や感じ方を理解できる能力です。「しなやかな感性」がなくては、未知の問題に対して皆さんが自分の頭で考え出す解決策も、視野が狭く、地球上の人類の誰もが納得いくものにならない可能性が高くなります。ですから、学問研究を進める中で、自分とは異なる人々を理解する「しなやかな感性」も育んでもらいたいと願っています。

その上で、大学院の新生には、早稲田大学の大学院で「ひびきあう理性」を磨いて欲しいと思います。「ひびきあう理性」とは、どういう理性でしょうか。学問を究める合理的な思考は、ともすると狭い学問分野に閉じこもりがちです。しかし、大切なことは、他者の考えや意見に耳を傾け、自分の意見も述べて、お互いの思考が共鳴することで高め合うことだと思います。そうした意味では、学際的な研究はその典型ですが、一つの研究分野においてさえ、他者の理性との交流があり、共鳴があれば、より高い水準の研究になり得るでしょう。他者の理性との間で、「ひびきあう理性」を磨いて欲しいのです。

皆さんには、早稲田の大学院では、「たくましい知性」を鍛え、「しなやかな感性」を育み、「ひびきあう理性」を磨いて欲しいと思います。それでは、皆さんは早稲田の大学院でどのような心構えで、学ぶべきでしょうか。

学問の前では何人も平等です。各研究科、各専攻、各研究室において、若い大学院生は、自由な発想を促されることが望ましいと思います。もちろん、指導教授や准教授、先輩の助手や大学院生たちには、敬意をもって接していただきたいと思いますが、何をテーマに研究するかは、自由に決めていただきたいと思います。また、同級生や後輩に対しては、決して批判のためだけの批判をせず、より良い研究を導くための建設的なコメントを述べるようにしてください。

そのために早稲田大学は、第1に、教員の側がより体系的に整理されて学習効果が上がる教育プログラムを提供していくべきだと思います。第2に、500万冊以上の蔵書を誇るわが国最大規模の図書館では、図書や電子ジャーナルなどの情報資料を提供します。第3に、より優れた教授、准教授を揃え、助教、助手と共に院生が研究を進められるような、より良い研究環境を整備していく予定です。さらに第4の中長期的な目標としては、博士後期課程に進み、研究者を目指す院生には、学外あるいは学内から用意した奨学金で、研究に専念できるように財務的な基盤を整えようと考えています。

そのために早稲田大学は、上記の教育・研究環境を財政的に支える3つの新しい試みを開始しました。第1は、今年の4月1日から「早稲田大学応援基金」という1口1万円からの寄付を募集し始めました。早稲田の卒業生は現在66万人ですので、もし卒業生全員が毎年1万円を寄付してくだされば、理論上は毎年66億円ものご寄付が増えることになります。

第2に、今年の4月5日から、Waseda University Ventures という若手研究者の発明に特許を取ることを勧め、スタートアップ企業を起こすこと、すなわちベンチャーの起業を手助けする仕組みを創ります。

第3に、2018年から開始している早稲田エンダウメント・ファンドという基金を積極的に運用していきます。研究力の強化に充て得る運用益は、2023年頃からもたらされる予定です。

これらの新しい早稲田大学の施策が実現すれば、早稲田の研究力は飛躍的に高まり、皆さんが修了した早稲田の大学院が、将来は「世界で輝く WASEDA」と評価されるようになることを目指しています。

皆さんは、早稲田では思う存分に研究をして、また後輩の指導もしていただき、充実した大学院生活を送ってください。皆さんは、是非とも早稲田の大学院で、「たくましい知性」をより一層鍛え、「しなやかな感性」をさらに育み、さらには「ひびきあう理性」を磨いてください。

To those incoming graduate students who prefer English, I would like to welcome you briefly in English.

Congratulations on your admission to Graduate School of Waseda University!

I believe, Waseda can provide an environment where you can do whatever research you can devote yourself in.

I hope you will gain a global perspective at Waseda, and think creatively in order to achieve your goals at Waseda.

I wish, may your research develop well, and may your graduate student life be fruitful at Waseda.

Best wishes for your study and research!

新しい大学院生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます！